

【宇治拾遺物語】

【】(昔、延喜の御門の御時)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

昔、延喜の御門の御時、五条の天神のあたりに、大きな柿の木、実ならぬあり。その木のうへに、仏あらはれておはします。京中の人、こぞりて参りけり。馬、車もたてあへず、人もせきあへずおがみののしりけり。

かくするほどに、五、六日あるに、右大臣殿、心得すおほし給ひける間、まことの仏の、世の末に出で給ふべきにあらず、我、行きて試みんとおぼして、日の装束するはしくて、びりやうの車にのりて、御前多く具して、集まりつとひたる者どもをけさせ、車かけはづして櫓をたてて、こすゑを、めもたたかず、あからめもせずして、まもりて、一時ばかりおはするに、この仏、しばしこそ、花もふらせ、光をもはなち給ひけれ、あまりにあまりにまもられて、しわびて大きなくそとびの羽おれたる、土におちて、まどひふためくを、童部どもよりて、うちころしてけり。大臣は、さればこそとて、帰り給ひぬ。(宇治拾遺物語)

問一 の「の」と同じ用法のものを次の中から選べ。

ア わたしの好きな本を教えよう。

イ 行くのか、行かないのか、はっきりしなさい。

ウ 部屋の中で遊ぶ方がいい。

エ 泳ぐのが得意らしい。

問二 「行きて試みん」とあるが、右大臣は何を確かめようとしているのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 現世に仏の存在を信じてよいのかどうか。

イ 柿の木に現れた仏が本物かどうか。

ウ 世の末に現れた仏に御利益があるのかどうか。

エ 大きな柿の木に本当に実がなっていないのかどうか。

問三 「あからめもせずして、まもりて」の口語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア あきらめずに、じっと見つめて

イ じっと見つめて、お守りして

ウ 顔が赤くなるのも忘れて、お守りして

エ わき見もせずに、じっと見つめて

問四 「しばしこそ」はどの部分にかかっているか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア うちころしてけり

イ あまりにあまりにまもられて、しわびて

ウ 花もふらせ、光をもはなち給ひけれ

エ まどひふためく

問五 この話から、右大臣はどのような人物であると考えられるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 人の噂にすぐ飛びつくような野次馬根性の強い軽率な人

イ 高貴な人だが、仏の存在を信じないような信仰心の薄い人

ウ 人々の注目を一身に浴びることを好む、目立ちたがりやの人

エ 自分で納得のゆくまで、ものごとをつきとめないと気がすまないような人

(豊島岡女子学園高)